

平成21年度～平成23年度 中期経営計画

(財)埼玉県芸術文化振興財団

当財団は、優れた舞台芸術の提供や、県民の皆様の芸術文化活動の支援等を目的に設立され、これまで芸術性の高い舞台芸術作品の提供と、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の3館の管理運営を通して、埼玉県の芸術文化の向上に貢献してきた。

特に平成18年からは指定管理者制度が導入される中で、公共劇場の使命を明確化するとともに、芸術性、採算性、地域社会性を同時に達成すべく、財団改革を進めてきた。

そして、蜷川幸雄芸術監督のもと「さいたまゴールド・シアター」という全国でも例のない演劇集団を発足させ、新たな演劇の世界を提案するとともに、財団経営面でも収支比率の大幅な改善など成果を上げることができた。

今後も当財団はこれまで培った実績と経験を礎に、これからの3年間を下記の経営方針に基づいた経営を行うことで、本県の芸術文化振興を図るとともに、財団としての役割を果たしていく。

1 経営方針

(1) 埼玉から芸術文化の創造、発信をしていく。

蜷川幸雄芸術監督を中心に、「さいたまゴールド・シアター」をはじめとする埼玉ならではの取組を行い、埼玉から新たな芸術文化の創造、発信をしていく。

(2) 「新しい公の役割」に挑戦していく。

作品の制作過程を通じて若手人材の育成に取り組むほか、人々の心に恵沢をもたらす感動体験や本物体験を様々な形で提供していくなど、公共劇場が果たすべき役割に積極的に取り組んでいく。

(3) 地域の核として賑わいを創出していく。

各施設で地域の特性に合ったプログラムを行うとともに、地域の方々と連携した取組を行うことで、地域の核として賑わいを創出していく。

なお、財団経営にあたっては、芸術性を追求しながらも効率性を確保した経営を行っていくとともに、新公益法人制度に向けた体制への移行準備を進めていく。

2 経営目標

(1) 文化振興事業における経営目標

収支比率	有料公演 チケット販売率	公演満足度
50%	80%	90%

財団のプロデュース能力を最大限発揮し、埼玉独自の企画や優れた舞台芸術作品を提供していく。また、併せて県民が気軽に参加できる事業や若手人材の育成を図っていく。

なお、本中期経営計画から収支比率や有料公演のチケット販売率においては、前計画では除外していた普及啓発に関する事業を含めて算出するものとし、文化振興事業全体での経営バランスにも配慮することとする。

さらに、新たに鑑賞者による公演満足度を指標に追加し、鑑賞者や参加者のニーズに応えられているかを検証する。

※ 収支比率＝チケット収入等自主財源／公演の総事業費

(2) 施設管理事業における経営目標

彩の国さいたま 芸術劇場		埼玉会館		熊谷会館	
施設 利用率	施設利用 満足度	施設 利用率	施設利用 満足度	施設 利用率	施設利用 満足度
85%	90%	75%	90%	75%	90%

施設の利用者の立場に立ったサービスの向上に努めるとともに、県民の皆様が施設を快適にご利用いただけるよう適切な施設管理を行っていく。

施設が有効に利用されるよう、各施設の利用率を引き続き指標として設定するとともに、本中期経営計画から新たに施設利用満足度を指標に追加し、利用者ニーズに十分応えられているかを検証する。

(3) 財団経営における目標

本中期経営計画期間中（平成21年度～平成23年度）に新公益法人制度への移行を進める。

3 実施方策

(1) 文化振興事業の実施方策

蜷川幸雄芸術監督のもと埼玉ならではの企画を実現していくとともに、3館の特長を活かしたラインナップを揃え、県民の皆様に優れた舞台芸術作品を提供し、埼玉から芸術文化を発信していく。

また、芸術に親しむきっかけとなるプログラムや地域と連携したプログラムも取り入れ、芸術文化に親しむ人の裾野を拡げていく。

さらに、平成21年度は、彩の国さいたま芸術劇場の開設15周年にあたるので、周年事業にふさわしい演目を提供していく。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

(ア) 演劇部門

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や「さいたまゴールド・シアター」、「彩の国ファミリーシアター」、若手俳優の育成などを実施

(イ) 舞踊部門

世界的な注目を集めるコンテンポラリー・ダンス公演の招へい、次世代を担う中堅、若手ダンサーによる新作の創作などを実施

(ウ) 音楽部門

室内楽などを中心とした一流アーティストによる公演、開放スペースで行う無料コンサート、県内小・中学校と連携し感動体験や本物体験を提供するアウトリーチ事業などを実施

(エ) その他

落語公演や「彩の国シネマスタジオ」、県内文化団体や教育機関等との連携などを実施

イ 埼玉会館

ホールの特性を活かしたオーケストラ公演や地域と連携した「ランチタイム・コンサート」、親子向けの「ファミリー・クラシック」などを実施

ウ 熊谷会館

歌舞伎公演や親子向けの「ファミリー・クラシック」などを実施

(2) 施設管理事業の実施方針

舞台芸術専門劇場である彩の国さいたま芸術劇場及び、多目的な活用が可能な埼玉会館・熊谷会館が、それぞれ県民の芸術文化活動の場として十分活用されるよう施設の管理を行っていく。

施設のより一層の利用促進を図るとともに、利用者サービスをさらに向上させるため、次の方策に取り組んでいく。

- ♪ けいこ場、練習室、会議室等のホームページ上での空き情報の公開に加え、インターネットからこれらの利用申込ができるシステムの導入
- ♪ 利用者アンケートを通して利用者ニーズを把握
- ♪ 地元への営業等を通じた地域連携の強化

また、彩の国さいたま芸術劇場の大規模改修の実施に向けた関係機関との調整を綿密に行っていく。

(3) 営業宣伝に関する事業の実施方策

チケットの販売促進及び財団事業のより一層の周知のため、幅広い営業宣伝活動に取り組んでいく。

- ♪ 多様な決済方法や、各プログラムにあった効果的な広報・営業手法などにより、チケット販売率を向上
- ♪ 財団主催事業などを紹介した情報誌を隔月で発行
- ♪ 利用者にとって使いやすく、また閲覧するだけでも楽しいホームページの運営
- ♪ 「メンバーズ」や「サポーター」などの会員制度の運営

(4) 財団の経営改革に向けた実施方策

経済情勢の急激な悪化に伴う厳しい経営環境の中、次のとおり財団の経営改革を積極的に進めていく。

- ♪ 新公益法人制度の施行に伴い、公益財団法人への移行を目指して準備を進める。
- ♪ 経営面のトップと芸術面のトップにそれぞれの専門家を配置し、役割分担することにより、芸術性と効率性のバランスがとれた財団経営を行う。
- ♪ 3館を一体的に管理することにより、総務経理事務やシステム開発に関わる業務を集中化するなど、効率的かつ効果的な経営を行う。
- ♪ 複数年契約や複数館一括契約の活用など、契約手法を見直し、競争性の確保を図る。
- ♪ 文化振興事業においては、計画から実施結果までを自己点検し、翌年度事業にフィードバックするという、実績評価サイクルを徹底する。
- ♪ 公演鑑賞者や施設利用者のニーズや満足度を把握するため、随時アンケートを実施し、利用者サービス向上及び満足度向上に資する。
- ♪ 県民の文化芸術活動調査などにより、事業の認知度や県民の鑑賞行動などを客観的に把握、分析を行い、次の事業に活かしていく。

- ♪ 職務に係る評価制度を引き続き実施し、給与や人事に反映させることで、職員の能力開発と意欲向上を図る。

4 財務計画

(単位：千円、%)

区 分	H20 予算	H21 計画		H22 計画		H23 計画	
	金額	金額	対20比	金額	対20比	金額	対20比
収 入							
県受託事業収入	1,269,838	1,269,099	99.9	1,266,200	99.7	1,263,500	99.5
県補助金収入	168,514	164,022	97.3	164,000	97.3	164,000	97.3
文化振興事業収入	374,295	329,955	88.2	357,000	95.4	353,300	94.4
利用料金収入	284,319	291,160	102.4	293,700	103.3	296,200	104.2
助成金収入	41,300	38,300	92.7	38,300	92.7	35,000	84.7
文化庁委託金	48,000	48,000	100.0	48,000	100.0	48,000	100.0
財団剰余金処分	51,600	35,518	68.8	22,500	43.6	19,300	37.4
その他収入	58,651	50,899	86.8	60,000	102.3	60,000	102.3
当期収入合計	2,296,517	2,226,953	97.0	2,249,700	98.0	2,239,300	97.5
支 出							
文化振興事業費	776,100	712,822	91.8	748,400	96.4	741,200	95.5
施設管理事業費	966,869	985,925	102.0	974,500	100.8	974,500	100.8
広報等事業費	26,786	38,515	143.8	37,200	138.9	34,000	126.9
運 営 費	78,951	42,699	54.1	42,700	54.1	42,700	54.1
人 件 費	437,811	436,992	99.8	436,900	99.8	436,900	99.8
予 備 費	10,000	10,000	100.0	10,000	100.0	10,000	100.0
当期支出合計	2,296,517	2,226,953	97.0	2,249,800	98.0	2,239,300	97.5
当期収支差額	0	0	-	0	-	0	-